

市制施行20周年記念

第11回 信州安曇野ハーフマラソン

市制施行20周年記念
第11回信州安曇野ハーフマラソン(市、市商工会など実行委員会主催・信濃毎日新聞社共催)が6月1日、豊科南部総合公園・ANCAアリーナを発着点に行われました。当日はさわやかな安曇野の空気のもと、6025人(ハーフの部5325人・ファミリーの部700人のランナーが8時30分の号砲と共に一斉にスタートしました。また、700人を超えるボランティアが大会を支え、沿道には多くの市民が応援に駆けつけ笑顔と安曇野流おもてなしでランナーを迎える姿が見られました。

途切れない
温かい応援と声援



さわやかな空気と景色
笑顔も自然とさわやかに



6・7年前から参加しています。もっと喜んでもらえるように本年からアルプホルンに加えてベルでの演奏も始めました。毎年同じ場所で演奏しているので、覚えていて声をかけてくれる人もいますのでうれしく思います。

安曇野アルプホルンクラブ
布川 育子さん(66・山形村)



有森裕子さんとハイタッチ
パワーを注入!



フィニッシュ後の
おにぎりが体に染みる



走り終わった皆さんにみそパンを渡しました。大きい声を出して笑顔で手渡すと「ありがとう」と笑顔が返ってくるのでうれしかったです。自分も陸上競技をやっているのので、いつかこの大会に挑戦したいです。

おもてなしボランティア 茅野 圭佑さん(12・穂高)

大会をサポートし、地域の力になりたいと思い初めて参加しました。荷物を取りに来るランナーにねぎらいの気持ちが伝わるように、目を見て話しかけることを意識しました。皆さんの頑張りをボランティアとして応援でき、やりがいを感じました。

手荷物預かりボランティア
濱 才華さん(15・三郷明盛)



田んぼの中をさわやかな風を切って気持ち良く走れました。沿道からの声援が温かく、涙ぐんでしまいました。走り終わった後に、みそをつけて食べるおにぎりもおいしくて気に入っています。

ハーフの部
鈴木 淳史さん(61・愛知県)



笑顔で大会を支える
ボランティア

